⑵　外国為替資金特別会計（別表３参照）

外国為替資金の収支は、前年同期の3,129億円の支払超過から、3,051億円の受取超過となった。収入は、前年同期（２兆2,736億円）に比べ、１兆6,760億円増加して３兆9,496億円となった。一方、支出は、前年同期（２兆5,865億円）に比べ、１兆581億円増加して３兆6,445億円となった。

⑶　その他の特別会計等

その他の特別会計等の収支のうち、主な項目についてみると次のとおりである。

保険の収支は、収入14兆5,292億円、支出11兆7,939億円、差引き２兆7,353億円の受取超過であって、前年同期（3,330億円の受取超過）に比べ、２兆4,024億円受取超過額が増加した。

3　国債等・国庫短期証券等

△印は支払超過（単位　億円）

区分	平成26年度第４・四半期			前年同期		
	発行（借入）	償還	差引き	発行（借入）	償還	差引き
国債等	360,781	174,691	186,089	359,905	181,252	178,653
国債（１年超）	348,824	161,734	187,090	346,957	173,304	173,653
借入金	11,957	12,958	△ 1,001	12,948	7,948	5,000
国庫短期証券等	1,034,886	810,970	223,916	1,076,237	897,841	178,396
国庫短期証券	919,386	695,470	223,916	971,237	792,840	178,396
一時借入金	115,500	115,500	△ 0	105,000	105,000	△ 0

国債等及び国庫短期証券等の発行（借入）・償還状況は、上表のとおりである。

国債等の収支は、18兆6,089億円の受取超過であって、前年同期（17兆8,653億円の受取超過）に比べ、7,437億円受取超過額が増加した。国債（１年超）の収支は、発行34兆8,824億円、償還16兆1,734億円、差引き18兆7,090億円の受取超過であった。借入金の収支は、借入１兆1,957億円、償還１兆2,958億円、差引き1,001億円の支払超過であった。

国庫短期証券等の収支は、22兆3,916億円の受取超過であって、前年同期（17兆8,396億円の受取超過）に比べ、４兆5,519億円受取超過額が増加した。国庫短期証券の収支は、発行91兆9,386億円、償還69兆5,470億円、差引き22兆3,916億円の受取超過であった。一時借入金の収支は、借入11兆5,500億円、償還11兆5,500億円、差引き０億円の支払超過であった。

（参考）　実質収支

上で述べた財政資金対民間収支は、各会計等と民間との間における収入支出（窓口収支）のみをとらえたものであるが、各会計等の収支の実態をみるため、これに各会計等相互間の収支（国庫内振替収支）を加えた実質収支を示すと、次のとおりである。

△印は支払超過（単位　億円）

区分	窓口収支 (A)	国庫内振替収支 (B)	計（実質収支） (A)＋(B)
一般会計	△ 17,914	△ 90,382	△ 108,296
特別会計等	△ 1,839	△ 98,001	△ 99,841
財政投融資	21,006	△ 1,719	19,288
外国為替資金	3,051	8,424	11,475
保険	27,353	△ 22,843	4,510
その他	△ 53,250	△ 81,864	△ 135,114
小計	△ 19,753	△ 188,383	△ 208,137
国債等	186,089	△ 14,329	171,760
国債（１年超）	187,090	△ 10,689	176,401
借入金	△ 1,001	△ 3,641	△ 4,641
国庫短期証券等	223,916	202,713	426,628
国庫短期証券	223,916	200,999	424,915
一時借入金	△ 0	1,713	1,713
合計	390,251	—	390,251
調整項目	△ 115	—	△ 115
総計	390,136	—	390,136

第２　国庫対日銀収支（別表４及び別表６参照）

△印は支払超過（単位　億円）

区分	平成年26度第４・四半期	前年同期
国庫短期証券の発行・償還（△）	△ 257,683	△ 236,231
特別会計の債券売・買（△）	△ 113,387	△ 14,925
財政投融資	△ 32,430	△ 11,960
国債整理基金	△ 80,957	△ 26,885
その他	△ 102,510	△ 80,285
計	△ 473,580	△ 301,591

期中における国庫対日銀収支（＊５）は、上表のとおり、47兆3,580億円の支払超過であって、前年同期（30兆1,591億円の支払超過）に比べ、17兆1,989億円支払超過額が増加した。

その内容についてみると次のとおりである。

1　国庫短期証券の発行・償還

国庫短期証券の発行・償還による日本銀行との間の資金調達・資金返済状況をみると、資金調達４兆365億円、資金返済29兆8,048億円、差引き25兆7,683億円の支払超過であって、前年同期（23兆6,231億円の支払超過）に比べ、２兆1,452億円支払超過額が増加した。

2　特別会計の債券売・買

特別会計と日本銀行との間の債券売買の状況をみると、11兆3,387億円の支払超過であって、前年同期の１兆4,925億円の受取超過から支払超過となった。財政投融資は、３兆2,430億円の支払超過であって、前年同期（１兆1,960億円の支払超過）に比べ、２兆470億円支払超過額が増加した。国債整理基金は、８兆957億円の支払超過であって、前年同期の２兆6,885億円の受取超過から支払超過となった。

3　その他

国庫と日本銀行との間の経常収支は、10兆2,510億円の支払超過であって、前年同期（８兆285億円の支払超過）に比べ、２兆2,225億円支払超過額が増加した。

第３　政府預金（別表５及び別表６参照）

財政資金対民間収支（39兆136億円の受取超過）から政府預金（＊６）の増減に関係のない調整項目（115億円の支払超過）を除いた収支は、39兆251億円の受取超過であった。また、国庫対日銀収支は、47兆3,580億円の支払超過であった。その結果、政府預金の期末残高は、前期末（10兆1,297億円）に比べ、８兆3,328億円減少して１兆7,969億円となった。